

掛川市おむつリサイクル・ごみ減量推進会議 生ごみリサイクル先進市町（藤枝市）視察報告

1 概要

- (1) 日 程 令和 5 年 8 月 29 日（火）
- (2) 参加者 藤枝市生活環境課 八木課長・岡村係長
掛川市環境政策課 深田課長・石山主幹・谷中
- (3) 視察先 藤枝市役所周辺区域ごみ集積所

2 視察報告

藤枝市の取り組み

[概要]

- ・平成 23 年度より生ごみの分別収集、堆肥化を進め、現在では、市内約 60,000 世帯の 1/3 にあたる 20,000 世帯（収集効率の観点から人口集中地域を選定）で燃えるごみの減量に取り組んでいる。
- ・平成 23 年度当初は各家庭においてバケツで分別後、集積所にある大きなバケツに投入する方式を採っていた。しかし、バケツの洗浄や悪臭に関する問題点から、平成 26 年度中からは指定ごみ袋での排出・回収へと変更し、市民負担の軽減を図りながら取り組みを継続してきた。

[市民の生ごみ分別実践]

- ・生ごみの分別収集対象地区は、平成 23 年度から徐々に拡大したため都度、町内会別に説明会を実施。回覧や職員で作成した DVD を活用し周知を図った。
- ・生ごみの分別や排出方法について、指定袋にしてからは臭い等に関する問い合わせ（苦情）はほぼなく、市民にもおおよそ定着している（当たり前になっている）様子。

[資源循環]

- ・収集した生ごみは、民間事業者により堆肥化を行っている（平成 23 年当初より変更なし）。
- ・軽トラ 1 台分が約 1,000 円、主に茶農家などが購入しており購入待ちも発生している。

[その他]

- ・生ごみ専用袋は、市で製造し町内会経由で各家庭に 120 枚/年間を市民へ配布（無償）している。
- ・藤枝市では、分別収集・資源化のほかに生ごみ処理機購入に対し補助金を交付し生ごみの減量に向けた取り組みを行っている。

[まとめ]

- ・生ごみの資源化の取り組みを長年実施し、以下の成果に繋がっている
令和 3 年度環境省一般廃棄物処理実態調査（人口 10 万人以上 50 万人未満の部） 5 位
令和 2 年度環境省一般廃棄物処理実態調査（人口 10 万人以上 50 万人未満の部） 6 位
- ・市民意見の反映や収集効率向上のため、分別収集の手法変更などを適切に行い成果に繋がっている
- ・市内での資源循環が確立されており、市民の理解を得られやすいスキームとなっている

（裏面、視察時の様子）



↑ 集積所



↑ 集積所内



↑ コンテナへまとめて排出



↑ 市民の排出の様子



↑ 生ごみ専用袋